

実践記録

学校名／学年	中学校／２年	
教科等：单元名	道徳：携帯電話の落とし穴	
キーワード	時と場に応じた適切な言動をとる。他の人々に対し思いやりの心をもつ。	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☒ 情報社会の倫理 ☐ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	1 情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす
	中目標項目番号 中目標項目内容	a4-1 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する
授業会場	☐ パソコン教室 ☒ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	他者へのおもいやりや礼儀が大切であることに気づく	
使用教材	教材名	「携帯電話の落とし穴」
	製作者	NHK
	入手先（URL等）	http://www.nhk.or.jp/10min/seikatsu/ja/frame.html?0&09&52

○展開

	学習活動	指導 評価◎
導入	1 携帯の所持について確認したり、携帯の便利さを考えたりする。 2 携帯電話を使う時に注意することは何か	・ 高校生になって所持していることなどを想像させながら、携帯の便利さについて考えさせる。
展開	3 資料（VTR）を見て問題点を考える。 人間関係のトラブル、架空請求、犯罪に巻き込まれる。 4 古川さんの件から、人間関係のトラブルの原因と、対策を考え発表する。 5 教師の話を聞く。	・ 資料「携帯電話の落とし穴」を視聴させる。 ◎自分なりの考えをもつことができたか。 ・ 「携帯電話の落とし穴」のあらすじを配布し、グループで話し合わせる。 ・ 携帯トラブルの事件から死につながった事例を話す。
おわり	6 感想を書く。	・ 自分なりの考えで、他の人々に対し思いやりの心を持つことが大切であることに気づけた生徒に発表させる。

○ 授業の成果

- ・ 適切な言動、思いやりの心をもつといったねらいは達成できなかったが、情報モラルの視点から、携帯電話の取り扱い方を考えることができた。
- ・ 元々、携帯電話を持ちたいとは思わない生徒が多くいる実態を捉えながら指導することができた。

○ 指導のポイント・留意点

- ・ 携帯電話に興味がない生徒に関心をもたせる。
- ・ 携帯電話の使い方に視点がいきやすいので、会話の内容・仕方に視点を置く。